

R6 地域林政アドバイザーの取組事例(1) ～岩手県花巻市～

はなまき

- ◆ 花巻市では、市有林や森林環境譲与税に係る業務を進めるにあたり、林業経営的な視点からの計画作成や実行管理を目的に、**県職員であった人材に地域林政アドバイザーの業務を委嘱**。
- ◆ アドバイザーは、航空レーザ計測や林地台帳のデータを活かして、**林業に係る情報化の業務のみならず、森林所有者や林業事業者への情報提供等に関する業務も担当**。

アドバイザーの基本情報 【個人委嘱】

- ・ 氏名：阿部 忠一
- ・ 履歴：前職は県職員で38年間勤務。平成29年4月に地域林政アドバイザー就任。会計年度任用職員。年齢60代。



(アドバイザーの阿部氏)

アドバイザーになったきっかけ（委嘱に至った経緯）

- ・ 花巻市では林業の専門職員が不在であったため、県を退職するときに、**経験を活かしてほしいと、市から打診があった**。
- ・ 林業経営や情報化の知識など、**今までの経験が地域林業の役に立つのであればと考え、引き受けた**。

一週間の業務の流れ



(個別相談活動)

業務の主な内容

スマート林業構築への取組

- ・ 航空レーザ計測や林地台帳のデータ等を活用し、所有者情報や森林の生育情報等が把握できるシステムを構築し、森林所有者や林業事業者、関係機関、行政内部での活用や技術研修等を実施。
- ・ 航空レーザ計測の調査及び解析は、市内全域を令和元～5年度までの5年間で終了。その間、国有林や隣接市町との連携調査への合意形成やデータ活用の普及等を実施。
- ・ 相続登記の義務化や高齢化、不在村化の進行等に対応し、森林所有者へ計画的に情報提供し、円滑な森林の継承、立木の販売、所有権移転等を促進。

市有林の経営ビジョンの作成

- ・ 市有林の経営管理については、小規模私有林と連携が図れる「区分計画による森林経営計画」を骨子に、計画的な伐採から再生林へ向けた経営ビジョンを作成。
- ・ 航空レーザの解析データ等を活用し、次期経営ビジョン作成へ向け情報整理中。



R6 地域林政アドバイザーの取組事例(1) ～岩手県花巻市～

はなまき

アドバイザーとして特に力を入れている点

- 地域の森林経営を市が主体的にリードするには、森林の現況や所有者情報等をいかに迅速に把握できるかが重要であり、航空レーザ計測等を活用し、より良いシステム構築に力を入れている。
- 「森林所有者への情報提供」については、試行錯誤しつつも市内の半分程度の地区まで説明してきたところであり、引き続き情報提供に注力している。



(樹高区分図)

今後の展望

- 森林の円滑な継承、立木の販売等において、新たな森林情報の活用には期待も高い一方、経営を継続するには課題を抱えた方も多い。効果的な情報の活用に向け、森林簿等の課題改善に取り組みたい。



(森林経営計画の説明会)

アドバイザーとしてのやりがい

- 市内全域で、航空レーザ計測等を活用した森林情報の整備が完了し、これまで取組が難しかった森林の立木販売等の分野への活用可能性もあり、関係者を含め今後の展開に期待を感じられること。
- 若い後継者等からも申込みがある個別相談で、所有森林の所在や地形、生育情報等の説明により、分かりやすい情報提供に感謝されること。

花巻市としてのアドバイザー制度活用による効果・メリット

- 航空レーザ計測等の情報を森林所有者へ提供し森林の円滑な継承につなげるなど、林業の専門的な知見を活かした先駆的な取組によって、市の林務行政に貢献している。

花巻市参考データ

林野率	65 %
森林面積	約59,000 ha (民有林: 約32,000 ha、国有林: 約27,000 ha)
私有林人工林面積	11,057 ha
林務行政の実施体制	林務担当職員 6人 (うち地域林政アドバイザー 2人)
アドバイザー経費の財源	特別交付税措置
アドバイザーの基礎情報	資格: 森林総合監理士、森林評価士 経歴: 元県職員 形態: 個人委嘱

R6 地域林政アドバイザーの取組事例(2) ～岐阜県飛騨市～

- ◆ 飛騨市では、豊富な知識や経験を有する専門人材が市の森林・林業行政に対して支援・助言を行う体制を構築し、市が主体となった森林経営・管理並びに林務担当職員の早期の習熟度向上を図ることを目的に、法人に地域林政アドバイザーの業務を委託。
- ◆ アドバイザーは、前職の豊富な経験を業務に活かして、森林整備の業務のみならず、林務行政の推進及び林務担当職員の育成に関する業務も担当。

アドバイザーの基本情報 【法人委託】

- ・ 氏名：中谷 和司（フォレストーズ合同会社）
- ・ 履歴：元岐阜県職員（森林土木20年、林業普及指導員15年）。飛騨市地域林政アドバイザーとして平成30年度より業務受託。年齢60代。



アドバイザーになったきっかけ（委託に至った経緯）

- ・ 岐阜県飛騨市の行政組織内には林業の専門職が不在で、かつ職員定数の関係から少人数で業務を行っており、人材確保・育成や、長期的な視点を持った施策の企画が困難といった課題があった。
- ・ 専門知識や保有している資格を活用することで、行政組織の課題解決や地域貢献、自己研鑽ができると考え、アドバイザー業務を受託した。



（アドバイザーの中谷氏）

一日の業務の流れ（一例、外業の場合）



業務の主な内容

市有林・里山林の整備及び管理

- ・ 森林経営計画の策定・変更業務の支援、整備計画地における現地調査から完了検査等に至るまでの市有林・里山林整備に必要な業務及び技術支援を実施。

森林経営管理制度の取組

- ・ 現地調査や業務発注、発注後の管理、完了検査等といった、未整備森林整備事業の推進に必要な業務支援を実施。

広葉樹のまちづくりの普及・推進に向けた取組

- ・ 広葉樹林整備に係る基本方針策定の支援や、飛騨市広葉樹林業・木材生産支援補助金の制度運用に関する支援を実施。
- ・ 広葉樹林整備の支援や事例研究の企画、各種会議への参加・助言等を実施。

FSC認証の取得に関する取組

- ・ 市有林のFSC認証取得に向け、事例収集や森林管理計画書の作成支援を実施。



R6 地域林政アドバイザーの取組事例(2) ～岐阜県飛騨市～

アドバイザーとして特に力を入れている点

- 関係者の幸せや地域活性化のため、**固定観念や既成概念にとらわれない多様な視点での助言**を心掛けている。
- 人材育成にも尽力し、**市職員にも主体的に考えてもらうように指導**している。
- あくまで主体は市**であるため、先頭に立たないことに留意している。



(広葉樹活用に向け関係者を現地案内)

今後の展望

- 後任は募集中であり、地域フォレスターの育成が望まれる。
- 飛騨市森林整備計画を充実させ、マスタープラン化**するために、円滑な事務の引継ぎや議会対策等を行うことが今後必要である。



(広葉樹資源活用事業による成果)

アドバイザーとしてのやりがい

- 森林・林業に関する専門知識や資格、経験を活かした森づくりを通して、**地域貢献が可能な点にやりがい**を感じている。



(説明会の様子)

飛騨市としてのアドバイザー制度活用による効果・メリット

- 長期的な視点に立った施策展開が可能となることや、市と事業者等とを仲介することによる安心感の醸成、専門職として、施策や企画立案などで困った際の相談相手になることで、**行政や地域課題の解決に貢献**している。

飛騨市参考データ

林野率	93.4 %
森林面積	74,065 ha
私有林人工林面積	16,199 ha (29%)
林務行政の実施体制	林務担当職員 3人 (うち地域林政アドバイザー 1人)
アドバイザー経費の財源	特別交付税、県補助金
アドバイザーの基礎情報	資格: 森林総合監理士、岐阜県地域森林監理士、林業技士(森林土木)、1級土木施工管理技士 経歴: 元岐阜県職員 形態: 業務委託

